不意に生活の途を絶たれ 涙も出ぬ職工連

到底持ち堪へられぬと社長から悲痛な言渡し

没落の浅野造船

昨年十月五百名の大馘首を断行した浅野造船所は夕刊所報の如く更に千八百名の残留職工の内製板工二百名のみを残して他の千六百名を突然馘首し殆ど解散にひとしい姿になつた千八百名の職工はこの事あるを知らずに二十八日の午前七時から入場して

作業に就き 目下建造中の東洋丸(千三百噸)東洋汽船会社貨物船(八千三百噸)の両船建造の為めハンマーを揮つて勢ひよく働いて居たが一方会社の楼上では今日大馘首を行ふ重役会議を午前十時から開き社長浅野総一郎氏副社長福田馬之助常務取締役浅野八郎同泰次郎監査役鈴木元次郎影山金四郎氏等其他十三名の重役並に各課長座席に着きまづ社長から造船海運界の不況並に今回の軍縮により

到底現在の 儘ではこの造船所は持ち耐へて行く訳にはいかぬ昨年末は漸く七分の配当を行うたが今期は配当所か非常の痛手を負ふ事になるので今日迄は現在居る職工を再び集めるといふ事は容易でないと思ひやむを得ず我慢して居たが最早抜差ならぬ状態に陥つたのでこの際涙を呑んで断然工場閉鎖の途を取るより外はなくなつたと述べ各重役の意見を徴した処結局

全重役一致 で造船とは別の仕事をして居る製板工二百名だけを残して造船部を閉鎖する事に決定し十二時重役会を閉ち更に社長浅野総一郎氏は後庭の裕に職工の倶楽部と称する監督官宅に八十名の役付職工を集め閉鎖の旨を告げ退職手当は在職半年未満の者には二十四日分の日給を與へ半年を増す毎に十二日分を増すので去年の秋馘首の時と同様の手當を給するがこれは来月七日にお渡しするまた今月二十日以後の日給は来月五日にお渡しすると述べ職工等は無言の侭聞き終ると浅野社長は直に其場から自動車を飛ばして神奈川県庁に赴き知事に経過を申出でた

家明け渡しで 一揉めの形勢

通用門には女房連が押寄せて泣き叫ぶ

一方役付職工は直に現場で働いて居た職工にこの旨を傳へたので職工等は餘りに突然の事とて呆然として言葉も出なかつたが漸く吾に返り直に手廻りの品を取纏め憂愁の色を面上に漂はせ

默々として 三々伍々自宅へ引き揚げた「餘り突然なのでどうしていゝかわからない長い間には何とか食ふ途も見つかるだらうがこの当座が困る吾々の仕事は最早何處へ行つてもない」と悲観したり或る者は「餘り突然なので驚きました我々の仲間には

工友會 といふものがあるがこの会も昨年の馘首で阿部会長が去つてからは頭になつて相談するものがなくかういふ際には全く困る」と落膽するものもあるがこの報を傳へ聞いて造船所の通用門には女房連が心痛の餘り多数押し寄せ泣き叫ぶなど悲惨の場面もあつた尚これ等の職工の多くは会社から二町程離れた潮田といふ所に建てられた千戸ばかりの社宅に住んで居るがそれも

今後二ケ月 を期して退散するやう命ぜられて居るが昨年馘首された連中でさへ今日尚其處にぐずついて居るといふ始末だから今後この問題でまた一揉めありさうである

二百名の社員も 大半は馘首が

職工の今後については 會社でも何とも出來ぬ

市原庶務課長談

市原庶務課長は「何分この際であるから止むを得ない退職手当は今迄同業者間で出した以上で却つて同業者からかれこれいはれさうな工合である職工側も

會社の現状 を察して恐らく不平はなからうと思ふ職工達も今後の行く途については不安であらうが会社としてもどうも途がないので其辺は諒として貰はなければならぬ二百名の残つた製板工は仕事が別でもあるし何とか食ひ繼ぐ事も出来やうと思ふが現在一百四十名の社員其他も何れこの整理のつき次第其

半數以上は 引く事になるだらうと考へる何しろこの一月始めに世界でもまだ珍しい航空母艦鳳翔を海軍省に引渡してからと云ふものは海軍の仕事も全く無くなりどうにも仕方がないので重役としてもこれ以外に途はないのです」云々

名電盟休

酒肴料を出して元通り

名古屋電鉄の車掌運轉手千五百六十八名は東本願寺別院総出で乗客が多いのに拘はらず会社は手当を出さないのを怒り廿八日朝同盟休業し午前六時三十分迄一臺の電車も運轉しなかつたが結局酒肴料を出す事となり午前七時より平素の如く運轉した(名古屋)

浅野造船所が 工場閉鎖の宣告

財界不況と軍縮の理由で メーデーを控へて一騒ぎ起らん

鶴見の浅野造船所では廿八日午後二時、役付職工二百卅名を工場内倶楽部に集め財界の不況と軍縮の結果今月末限り工場を閉鎖し千八百人の職工を解雇する旨を言渡した、社員百六十名も整理付き大部分解雇せらるべく、就職六ケ月に對し日給廿四日分、半年を増す毎に十二日分を支給する筈なるも五月一日のメーデーも迫り居れば無事に解決せざるべき模様である

工廠長會議

海軍省で二十八九両日午前九時から開催の臨時工廠長會議は主として軍備制限の大問題あつて會議の第一日には加藤海相から諮問會議の海軍條約協定に關する經過報告並に軍縮條約批准後に於ける我海軍の政策に就いて一場の訓示があり開催岡田艦政本部長議長席に着き今後の海軍政策、廢棄艦の處分、陸上設備の改廢、人員の淘汰、職工の失業救濟、改訂造艦計畫其他重要案件数項に就いて實施計畫を確立決定すべく協議をして午後四時散會した因に當日の列席者は左の通りである

▲本省 加藤海相、井手次官、中里(軍務)古川(人事)志佐(經理)各局長

▲艦政本部 岡田艦政本部長、藤原総務部長、谷口(総務部第一)青木(第二)永安(第三)金田(艦政本部第四)山本(同第一)野倉(同第三)山本(同第四)増井(同第五)山内(同第六)宮地(同第七)各部長

▲工廠 鮫越(横須賀)森山(呉)河田(佐世保)岡崎(舞鶴)四工廠長及大阪支廠長